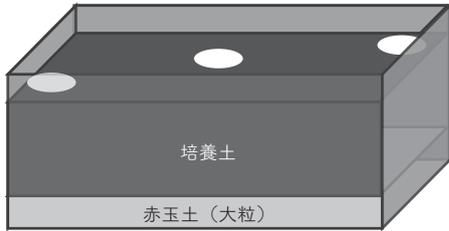
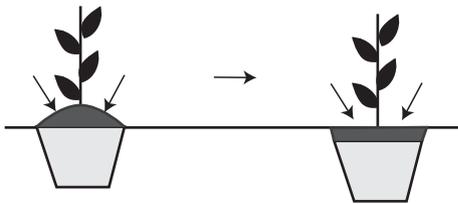


春野菜のプランター植え付け

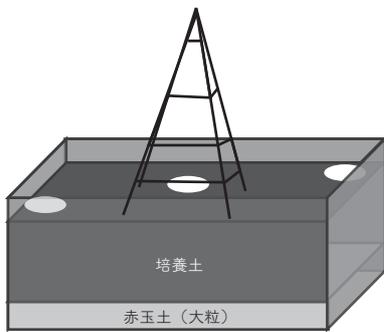
春野菜の寄せ植えプランターの植え付け（ブロッコリー・つるなしスナックエンドウ・サニーレタス）



できるだけ距離を放して植える



プランターに植えられたと苗に認識させたい！



準備するもの：

プランター・鉢底ネット・大玉赤玉土・培養土・バーク堆肥・移植ごて・ゴム手袋又は軍手・苗・支柱（必要な場合）

手順とポイント

①プランターの底にネットを敷き、赤玉土（大粒）、培養土を入れる。水やりをしてかさが減るので、培養土はできるだけ多めに。

★1:プランターの底に軽石ではなく赤玉土（大玉）を使うことで、植替えの時に軽石を分類せず、混ぜ込んで土を再利用できる。鉢底に空気を取り込むために軽石や大粒土を入れる。

②プランターの真ん中・両端の3か所に穴をあける。

★2:プランターの中でそれぞれの苗ができるだけ大きなスペースがとれるよう、真ん中と両端に植えます。

★3:今回の組み合わせでは、つるなしスナックエンドウ（支柱あり）を真ん中、ブロッコリー・サニーレタスを両端に植える

③苗を手に取り優しく植え、土を富士山型にかぶせて土の中に押し込む。

★3:プランターに植え替えられた!と認識できるように、最後にぎゅっと押し入れて、ポットの中とは違って大きく育てるよ!と苗に教えてあげるのが植え付けのポイント!

④(支柱を必要とする植物の場合) 支柱を立てる。

★4:支柱と麻ひもを使って、つるが絡むことのできる場所をつくってあげるのが今回のポイント

⑤バーク堆肥を使いマルチングする。暑さ3cmくらいが目安。保湿効果がある（農家さんが藁でやるのと同じ）

<育てるとき>

★空気の通り道になるようプランターの下に隙間を空けるとよい。

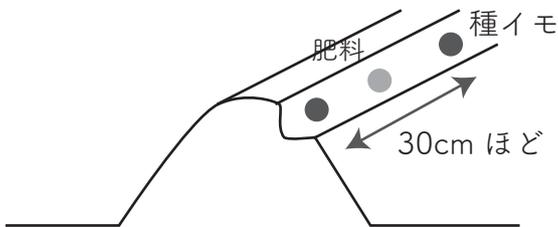
★スナックエンドウはうどん粉病（カビ）になりやすい。家庭菜園（短期決戦）なので無理に薬を使わず、早採りに。病気になったらそのまま最後まで待つか、夏野菜に切り替え!

★サニーレタスは外側の葉から食べられるので、育てながら収穫するとどんどん若い葉が育つ。

じゃがいもの植え付け



肥料：
バーク堆肥：油粕 = 1:1 で
混ぜたもの



種イモは芽が上に向くよう、へそを地中に向ける



★畑の準備

道具：鍬・アメリカンレーキ

①鍬で畝をつくる。場所にもよるが、基本的には日光が当たりやすいように南北方向に畝を作る

②アメリカンレーキを使って畝の土をほぐしていく。

雑草や草の根も取り除く

★種イモの植え付け

準備するもの：

種イモ・バーク堆肥・油粕・バケツなど（肥料を混ぜるため）

※種イモを半分に切って使う場合は、腐らないように3日程室内におき乾燥させる。

※肥料は、バーク堆肥と油粕を 1:1 で混ぜ合わせて使う。

手順とポイント

①畝の中心より少しずらしたところに溝を作る

②溝に 30 cm ほどの間隔で、種イモのへそを地中に向けて種イモを置く。芽が上に向かって伸びるように！

③種イモの間にバーク堆肥と油粕を混ぜ合わせた肥料を置く。大人の手で 2 握りほどが目安。

④優しく土をかぶせる。

<育てるとき>

・地植えの場合、じゃがいもは草取り、芽かきをすれば育つ。水やりもほとんどしなくて大丈夫。

・肥料は種イモを植えるときの置き肥のみ。ただし、種イモが肥料に触れないように（肥料を分解する微生物に種イモも一緒に分解されてしまう！）

・芽かきはひねるように、根こそぎとる

プランター土のリフレッシュ



袋に古い土・バーク堆肥・
空気をを入れて口を結び、日光消毒させる

準備するもの：

使っていた土・バーク堆肥・透明ビニール袋（ゴミ袋）
粉末発酵油粕・有機石灰・ミリオン（珪酸塩白土）・培養土

★プランターの場合：

①元の土を軽石とより分け、土を透明ビニール袋に入れる。
1割程度のバーク堆肥と、空気を袋に入れ、口を結んでしばらく日光消毒する（3日～1週間程度）

②有機石灰、粉末発酵油粕を混ぜ込み使う。

※軽石の代わりに大玉赤玉土を使うと、そのまま混ぜ込んで次も使えるので、土をより分ける手間が省ける

★レイズドベッドの場合：

今回のレクチャーでは、元の土の1割程度のバーク堆肥と、有機石灰、粉末発酵油粕、ミリオンを加えて混ぜ、足りない分はさらに培養土を加えた。

※レクチャー時はそれぞれ4袋分の培養土を追加

それぞれの特徴と役割：

●バーク堆肥：樹皮を発酵させたもの。

土を使ってやせた分（およそ1割）加える。

●粉末発酵油粕：肥料として加えている。

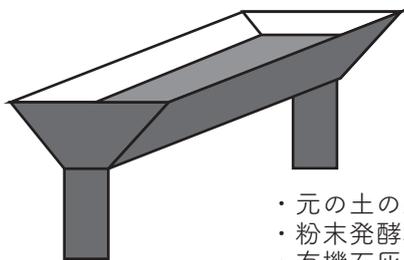
野菜は短期決戦！有機肥料のなかでもすぐに効果の出る発酵油粕、分解されやすい粉状が◎。

●有機石灰：植物を植えて酸性になった土を弱アルカリ性に戻す役割。有機石灰（牡蠣殻石灰など）なら、寝かせずすぐに土を使える。

●ミリオン：調整役として。連作障害を防ぐことにも！必須ではなく少し高価なので、可能な場合はプラスアルファでいれるとよい。

★土は何度でも再生・再利用できる

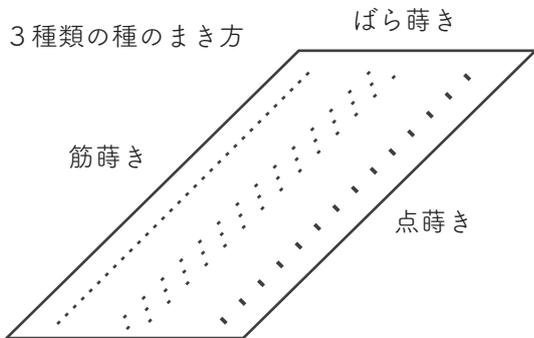
★水やりを行う過程で土のかさが減るので、新しく植えるときにはプランターに多めに土が入っているようにする



- ・元の土の約1割のバーク堆肥
 - ・粉末発酵堆肥
 - ・有機石灰
 - ・（ミリオン：珪酸塩白土）
を加え混ぜる
- ↓
- 足りない分は培養土を加える



プランターに種まき



レクチャーでは筋蒔きをしました



種をまき溝をつくります



すじまき。
まっすぐ種が並びます



種まきしたら、土をかぶせてぎゅっと押さえます

手順とポイント

- ①土には先に水やりしてしっとりさせておく。
- ②材木などを使って土に3cmほどの溝を作る。
※溝の間隔は成長した時に葉同士が触れ合うくらいの幅を想定する
- ③筋蒔きではつくった溝に対して、いい加減に蒔くのを何往復もする、もしくは正確に少しずつ蒔く。だいたい1cmずつくらいの間隔でまく。
- ④種をまいたら、ふんわり上から土をかぶせ、最後は上からぎゅっとおさえる。
種に、植えられたよ!と伝えるようにするのがポイント。
- ⑤種が流れないように注意しながら水やりをして終了!
芽が出るのを待ちます…!

<種まきのとき・育てるとき>

- 袋の中の種は休眠しているだけで生きている。発芽率は落ちるが、袋に書いてある期限を過ぎても一年くらいは蒔いても大丈夫。
- 発芽して、芽同士が触れ合い窮屈になってきたら適宜間引きをする。はさみで間引きをすると土もつかず、間引き菜まで食べやすくなります。根が残っていても問題なし!
- 化成肥料を使わないほうがよいの?
>肥料は、土の微生物に餌をあげること。有機が無機になったときに植物に吸収されるので、有機でやるならすぐ効果の出やすい発酵のものを使う方がよい。
こだわりがなければ化成肥料を使ってもよいし、本などでの指南にある化成肥料の代わりに発酵油粕を使っても◎